

令和6年8月8日開会

令和6年度第5回教育委員会定例会会議録

垂水市教育委員会

令和6年度 第5回教育委員会定例会

日時、場所及び出席者

日時及び場所	出席者	
令和6年8月8日(木)	教育長 坂元 裕人	教育総務課長 草野 浩一
午後1時58分	教育委員 田原 正人	学校教育課長 川崎 史明
↓		
午後3時47分	教育委員 葛迫 幸平	社会教育課長 大山 昭
第2研修室	教育委員 田之上 厚美	
	教育委員 福里 由加	

会議要旨

1 開会

定刻前ではあるが、定足数に達していることから令和6年度第5回教育委員会定例会を開会した。

議案第15号及びその他の「第4期垂水市教育振興基本計画(たたき台)」については、非公開で説明する旨、教育長から発議があり、全会一致で議決された。

2 令和6年度第4回定例会及び第1回臨時会会議録の承認について

令和6年度第4回教育委員会定例会及び第1回臨時会の会議録について、承認する旨、教育長から発議があり、全会一致で議決された。

3 議事

議案第13号 垂水市スクールバス等の利用に関する規則の一部を改正する規則について

議案第14号 垂水市教育委員会の事務の点検及び評価について

議案第15号 教育に関する事務について定める議案についての市長への意見申出について

4 その他

(1) 垂水市立学校給食センター調理・配送業務委託の締結について

(2) 第4期垂水市教育振興基本計画(たたき台)について

5 委員並びに教育長及び課長報告

6 閉会

議 決 事 項

件 名	提案等理由	審議の状況	採決の次第
<p>議案第 13 号 垂水市スクールバス等の利用に関する規則の一部を改正する規則について</p>	<p>現在運行しているスクールバスに鹿児島県立垂水高等学校生が利用できるよう規則の一部改正について、垂水市教育委員会の行政組織等に関する規則第 11 条第 3 号の規定に基づき、会議の議決を求めるもの</p>	<p>特記事項なし</p>	<p>原案可決</p>
<p>議案第 14 号 垂水市教育委員会の事務の点検及び評価について</p>	<p>地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条第 1 項の規定に基づき、教育委員会の権限に属する事務の管理及び状況について点検及び評価を行った「垂水市教育委員会の事務の点検及び評価並びに外部評価委員会の評価結果報告書」について、垂水市教育委員会の行政組織等に関する規則第 11 条第 15 号の規定に基づき、会議の議決を求めるもの</p>	<p>特記事項なし</p>	<p>原案可決</p>
<p>議案第 15 号 教育に関する事務について定める議案についての市長への意見申出について</p>	<p>普通財産である旧牛根中学校の売却に伴い、所要の改正を行う条例制定の議案を提出することについて、市長に意見を申し出ようとするもの</p>	<p>特記事項なし</p>	<p>原案可決</p>

議事内容等

3 議事	
	議案第13号 垂水市スクールバス等の利用に関する規則の一部を改正する規則について
教育総務課長	(資料に沿って説明)
田原委員	乗車する場所はどこからになるのか。
教育総務課長	はじめに、対象となる垂水高校生的人数は4名となります。御質問の乗車する場所については、4名いずれも下境からの乗車となる予定です。
教育長	ちなみに、その子たちは中学生時代スクールバスを利用していたのか。
教育総務課長	利用しております。
教育長	そう考えれば、なんの支障もないのではないか。
教育総務課長	なお、本日、ご承認いただけましたら、2学期からの利用ができるようになりますが、乗車が中学生と高校生と混合するなりますことから、座席等の配慮をしなければならないと考えております。
教育長	バスの座る位置ということか。
教育総務課長	そのとおりです。
田原委員	あと、これを改正するという事は、今年だけではないということか。
教育総務課長	そのとおりです。
教育長	牛根方面の子供たちには非常にいいというか、ありがたい。
田之上委員	これは帰りだけということですか。

教育総務課長	朝、行きも含めて、行き帰り利用できるようにするものです。
田之上委員	料金とかは、無料ですか。
教育総務課長	<p>現在、スクールバスの契約は、垂水市と鹿児島交通との契約となっていることから、鹿児島交通は現在利用している中学生を含め、利用者からは運賃を徴収することはできないこととなっております。</p> <p>ただ今回、利用予定の垂水高校生は、これまで定期券を購入し路線バスを利用しておりますが、今回の対応でスクールバスに毎回すべて乗車できるわけではないため、これまでと同様に定期券を購入していただき、スクールバスを利用していただくこととなります。</p>
田之上委員	その定期券でスクールバスを利用できるときに利用するということか。
教育総務課長	<p>そのとおりです。スクールバスに乗れないときは、路線バスを利用することになります。スクールバスの運行時間は、どうしても中学校の行事等に合わせたものとなることから、テストなどで帰りの運行時間が早まったりすることもあります。そのため、垂水高校生が乗れなくなることもあることから、引き続き、路線バスの定期券は購入していただくこととなります。</p>
教育長	<p>ということです。学生にとっては非常にいいことです。よろしいでしょうか。</p> <p>(原案可決)</p>
教育総務課長	<p>議案第 14 号 垂水市教育委員会の事務の点検及び評価について (資料に沿って説明)</p>
田原委員	<p>16 ページのところですが、GIGA がものすごく学力向上に繋がったと非常に高い評価を外部委員からいただいております。</p> <p>この中で、私が教員時代に進めてきた学習の個別化とか、個人差に応じた指導というのは、なかなか難しいものだなと思っていましたけれども、例えば、夏休みの宿題も一斉にプリントを出していましたが、そうすると、やってこない子供たちが9月は必ずいます。やってこないというか、できない、やれない。</p>

全部同じように問題を出しているのので、できる子もいれば、早く済む子もいれば、できない子もいます。

9月になって、してこなければ、部活を中止して職員室前の廊下で一生懸命やっているという姿が見受けられました。

まったく同じ問題を宿題に出すのはよくないのではないのかと常に思っていたのですが、これがこのGIGAで解決されているというか、解消されて、個人差に応じて問題をやっていけばいいわけで、これは授業の中でもそうで、特に、進んでいる子たちはどんどん自分でやっていけるので、ここがブレーキにならないということが非常にいいなと思っています。

特に、職員室前の廊下で宿題をさせていることは、心を痛めておりました。そういうことが不登校の原因にも繋がっていくのではないかと思ったりしましたが、こういうことがクリアできているというのは本当にいいことだと思っています。この面について今後も個に応じた指導を進めていただければと思っています。

学校教育課長

今、田原委員からお話があったことは、非常に大事なことだと思っています。

学校の長期休業中の課題については、「これからは、できるだけタブレットを活用して、個別化、個性化ということを中心にいきましょう」という話を各学校にしてあります。

私たちの思いと学校の思いというのが完全に一致しているわけではないので、積極的に取り組み始めているところと、今後という学校と、今ちょっと差があるような気がしますので、徐々にそこらあたりは、「今年よりは来年」、「来年よりかはその次」ということで進めていきたいと思いません。ありがとうございます。

教育長

ですね、やっぱり一番子供の実態を知っているのは学校です。

我々の思いも伝えますが、今、学校教育課長からあったように緩やかにスモールステップで上げていくみたいなイメージかなと思っています。

加えて言うと、今でもペーパーがいいという子もいます。だから、それは選択させる。この余地は残す必要があるのかなと思っています。「僕は、これはペーパーでやりたい、だけど、こっちはやっぱりタブレットでやりたい」というように子供に選ばせる、これが大事なことです。こういうのも大事にしつつ、進めていきたいと思っています。

葛迫委員

今の子供たちは塾があったり、塾も一つとか、三つ四つと、結構子供たちは忙しいです。その中で、子供たちが本当に好きで塾に行っているのか、スポーツが好きな子はスポーツにいろいろ行ったり、ピアノが好きな子はピアノの塾に行ったり、絵が好きな子は絵を描いたり、よく子供たちを見ていると勉強もそうなのだろうけど、ピアノもそうなのだろうけど、絵もそうなのだろうけど、親が行かしているのかなと思います。

自分から進んでしようとしなないというか、何かそこのところがちょっと違っているのかなと、本当に子供が好きなことをさせてあげるというか、

なかなか、そのところが今の時代は違うのかなと思います。

今、私の鹿児島の教室には、いろんな子供たちがくるのですが不登校の子が多いです。

お母さんもきて、「うちの子は学校にいかない、だから、高校は、私立は無理」と言っています。

私は絵を教えているのですが、絵が好きで絵の方に行きたいけど、絵を描くということは、いろんなことを知らないといけない、絵を描くストーリーを作らないといけないのですが、「それができないとできないのだけだな」と思っています。

つまり、絵が好きだから絵だけを描いていたらいい、という問題ではないと言いたいのですが、なかなかそのことを親に分かってもらえないというか、本当に好きだったら、まず、基本的なことをやっぱり勉強して、その基本的なことがついてくると思っています。

いろいろ枝葉がありますから、それを覚えないことには、知らないことには、物語はできませんからという風に言うのですが、やっぱり、絵を描くこと、物語を作ること、ではなくて「絵を描くことが好きだけど、好きだけは上の方にはいけませんよ」と、そういうところで、いろんな塾に行かすというのもあるのでしょうかけれども、いろんな経験とか、山を走ったりとか、泳いだりとか、川で魚をとったりとか、いろんなことを経験させてほしいなあと感じています。

だから、GIGA もそうなのでしょうけど、GIGA もこれからの時代はパソコンとか知らないと多分生活できないと思います。

時代がすごく早く変わってきていますから、子供たちというのは非常に大変です。

我々が小さい頃の時代と違って、今の子供たちは、いろんなものが押し込んでくるというか、そういうところをやっぱり教えていかないといけないのかなと思います。

大変だろうなと思いますが、そういうところは詰込教育ではなくて、いろんなことを遊んだり、山に行ったり、キャンプをしたりして、そんなところからいろんなものを覚えていく、進めていく、そういうことが大事だと思います。

教育長

外部評価委員からのご意見ですが、いろいろとご指摘をいただき、また高く評価をしていただき、ありがたかったです。

特に、フェンシング、今、火がついています。あのオリンピックの選手は、たいがい垂水市体育館で練習しています。

あの人たちがメダリストです。GIGA スクールだけじゃなく、「フェンシングのまち垂水」をうたっていてよかったなと思ひ方した。

後ろには垂水市の体育館があり、あそこでみっちり練習した人たち、そういう意味ではすごいことです。

こういう話も子供たちにも聞かせてあげないといけないと思うことでした。あそこで頑張った人たちが、金メダリスト、あるいは団体・個人でメダルをもらったのだという話をしないといけないと思っています。そして、フェンシング教室の子供たちを増やしていく、というのがいいのかなあと、垂水市にとっても財産ですから、ぜひ教わりたいなと思います。

<p>社会教育課長</p>	<p>(原案可決)</p> <p>議案第 15 号 教育に関する事務について定める議案についての市長への意見申出について (非公開)</p>
<p>4 その他 教育総務課長</p>	<p>(原案可決)</p> <p>垂水市立学校給食センター調理・配送業務委託の締結について (資料に沿って説明)</p>
<p>教育長</p>	<p>食に関する大事な、大事なプロポーザルということだったですけれども、結果、委託先が変わったということです。</p> <p>冒頭説明があったように見積金額でかなり差がありました。そこは1つインパクトとしてありました。それが1点。</p> <p>もう1点は、同じく先ほど説明あったとおり、職場環境を含めた、いわゆる会社の体制と言えいいのでしょうか。それが、A社の方は非常に明るく、なにかこう人間関係もすごく良いようなイメージを持たせるプレゼンでした。一方、これまでの業者も悪いわけではないのですけれども、そういうところが、ややA社に比べると見えにくい部分があったのか、とにかく明るくて、楽しく、やりがいのある職場というイメージが、A社側にインパクトがあったのかなというふうに思っています。</p> <p>もう少し加えていきますと、新たな提案、先ほどあった垂水高校の給食(昼食)の提供についての提案を積極的に押したのはA社でした。</p> <p>こちら、垂水市のことをものすごく調べられていて、そして垂水高校の思い、願いみたいなのも、受けとめて、それをプレゼンしたということもやっぱりインパクトとしてありました。</p> <p>ということで、A社の方に今回決定したということです。</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>第4期垂水市教育振興基本計画(たたき台)について (非公開)</p>
<p>5 委員並びに教育長及び課長報告</p>	<p>委員並びに教育長及び課長報告に入る。</p>

田原委員

7月31日に市町村教育委員会委員の研修会がありました。その中で、特に不登校の対策についてというのがありましたが、それで十分会議で話し合いができなかったため、資料をいただけてきましたので、皆様にお配りしましたとおり、少し資料をまとめてみました。

まず、県教育委員からの講演ですけれども、原之園政治氏から教育委員会に臨む姿勢とか、提案される議題に対する事前準備とか、質問の準備とか、会議資料の整理保管などをお話していただきましたが、非常に立派過ぎて、こんなふうにはなかなかできないかと敬服をいたしました。

なかなか真似できないことばかりでしたが、本市も1週間前に資料を配布していただきますので、せめてしっかり読み込んで準備しておこうかと反省したところでした。

また、協議では、不登校対策について、グループ協議が行われたのですが、時間も短くて、グループ内で発表が終わらないうちに協議が終わってしまいました。その後、代表地区の発表になり、各地区の教育委員会が提出した資料を全部読み、それぞれの地区でどのような対策を立てて取り組んでいるのかというのがありましたので、まとめてみました。離島の情報はありませんでしたが、対策として、垂水市はすでに設けておりますが、校内教育支援センターを校内に設ける。それから、大きなところでは校外教育支援センターを設けるという2つの方法があるようです。

それを鹿児島市の例で見えていきますと、校内教育支援センターを3校、これは大きな学校を中心にということでしたので、おそらく中学校だろうと思いますが、そういうところに置いて、指導員も配置しているとのことでした。

何名というのは書いてない資料もありましたので、あるということで、まとめました。

それから、指宿市、鹿屋市もそうですし、薩摩川内市もそうですけれども、校内教育支援センターは、すべての小学校・中学校に置いているけれども、専属の指導員は置いていないようです。

それから、校内教育支援センターについて、もう少し見ていきますと、始良市は、支援センターを置いていないようですが、これは、生徒数、児童数が大きすぎて空き教室がない。だから、つくれないということでした。

それから、校外の教育支援センターというのは、たいがい、その町の中心の公民館とかに指導員を置いているようです。

その他として、志布志市では、校外教育支援センターの中でも、「学びの多様化教室松風」という、これは私が勤めていた頃もありましたが、設けているようです。

それから、フリースクールがあるのは、鹿児島市と鹿屋市、始良市もあるのですが、詳しく書かれていなかったです。こういう校外の教育支援センターがあるところは、それぞれ指導員を置いて対応しているようです。

また、一覧表を見てみると、ほとんどの市町が中心的小学校や中学校に校内教育支援センターを設けて、専属の指導員を置いているようです。補充学習とか、教育相談等、該当校とオンラインで授業を受けられるようにするなど、支援センターもICT化が進んでいるようです。

校外の教育支援センターは16市町が設置し、町の中央公民館とか、図書館とか、市民館などに設置されて、複数の指導員が加配配置されていて、

こちらにも補充指導とか、教育相談の他、折り紙など創作活動やスポーツ、読書など施設の特性を生かした支援も行われているとのことでした。

通学の面では、保護者の送迎ということになると継続した指導ができないこともあるらしいとのことでした。

それから、志布志の学びの多様化教室松風は、市の体育館の一室を教室としておりました。

退職校長1名の対応となっていました。各個人の時間割で活動し、子供たちが時間割を作って、学習活動、読書、運動、花園の手入れなどの活動と、フリースクール的な傾向が強いようですが、ただ問題として、子供たちが元の学校の復帰を考えていないところがあり、ずっと居続ける傾向があるようです。

該当校との交流、管理職や学年主任とか担任が施設を訪れて関わりを深め、子供の教育に関心の薄い親の気持ちを学校に向けることなどが大事なのかなというふうに思いました。

どれがベストということではなく、それぞれの市町が、不登校児童生徒一人一人の実情に応じた対応ができるよう真剣に対応し始めていると感じました。

また、肝付町は、不登校の小・中学生を持つ保護者を対象に、日頃の訪問や悩みを相談し、保護者同士の交流できる集いの場を開催し運営すると書いてありました。

実際行っているのかわかりませんが、保護者支援の会の実施を計画しておりました。これは、参考にしたい事例と思いました。以上、こういうことを感じた研修会でした。

葛迫委員

今年、鹿児島市立美術館は、開館70周年、黒田清輝没後100年の年に当たるといことで、今回、「黒田清輝とその時代展」が企画され、7月24日に展覧会が始まったところです。チラシのコピーを皆様に配布してありますので、みていただけたらと思います。

当日は、オープニングミニコンサート、そして、開場式がありました。夏休みということもあって、多くの児童や学生さんたちが参加していました。

黒田清輝は、鹿児島市に生まれ、法律を学ぶためにフランスに留学したのですが、絵画の道に方向転換しまして、戸外で制作をする外光派と言われるラファエロ・コランに師事をして、自然豊かなパリ郊外のグレー村というところに滞在しながら制作をしていました。

帰国後は、画家として制作活動のみならず、日本の美術教育、そして、行政にも大きく関わっていきます。

今回の展覧会は、東京の国立博物館の他、国内の美術館等が所蔵する黒田の作品を中心に、また本市出身の和田英作や関係画家等の作品を含め、110点が展示されています。

出品作品の中でチラシのこの部分のところは、現在も残っているグレー村の「ホテルシュヴィヨン」というところのホテルですが、グレー村で制作された作品「読書」や、浅井忠の「グレー村」、和田英作の「夕暮れグレー」などが展示されています。

また、黒田が先ほど言ったように投宿したとされるグレー村の通りは、

「黒田清輝通り」と2001年に命名されました。

黒田以降は、和田英作や浅井忠といった多くの日本人画家が、このグレー村に滞在し、制作を行っています。

さっきほど言ったこの「読書」のモデルになった場所、「ホテルシュヴィヨン」ですけれども、現在も残っており、鹿児島で毎年開催されている南日本美術展の海外留学生も、ここグレー村に訪問し、制作しています。

私も2003年でしたけれども、このグレー村に訪問し、この「ホテルシュヴィヨン」というところに滞在しました。

そして、その制作した頃の記憶が今回の展覧会で甦ってきました。自然の中で暮らすこと、生活すること、その意味をこの美術館では考えさせてくれています。

この展覧会も9月1日までの夏休みの間はずっと開催されています。

和田英作もグレー村を訪れて描いていますが、和田英作は1874年に生まれていますので、今年は生誕150年にあたる年ということになります。

展覧会では、そのことには触れてはいなかったのですが、今年の「第10回和田英作・和田香苗記念絵画コンクール」では、この生誕150年ということがつなげていければと考えているところです。以上です。

田之上委員

私も教育委員会委員研修の件からです。

特に、不登校対策について、私も興味を持って話を伺いました。

コロナ禍以降、不登校児童生徒が急に急増している現状があるとのこと、その中でも、特に、新規の不登校児が多くなっているということでした。

未然防止のために、文部科学省はじめ、教育委員会、学校が一体となって取り組んでいるというお話を聞く中で、「魅力ある学校づくりの推進」、「学校にしかできないこと」、「学校だからできること」、「安心して登校できる居場所づくり」、「絆づくり」、さらには「授業改善」や「行事改善」など、簡単にできることではないですが、大切なワードがたくさん出てきました。

それらについて、いろいろな説明を受けた後に、先ほども出ましたグループ討議と全体発表がありました。

グループ討議では、それぞれの市町村の取組について簡単に紹介し合いました。

教育支援センターの設置、SOSの出し方、受け止め方教育、学校外の学びの場との連携など、課題を抱えながらも、様々な取組をどこも進めておられるということでした。

その後、全体で3件の事例発表があり、終了となりましたが、質疑応答などの時間がもう少しあればよかったのかなと思いました。

もう1点は、8月1日の自主文化事業についてです。

「桜舞」花征きて、の舞台演劇を観ました。平和教育の一環として実施され、市内の小・中学生を招待して実施されました。

夏休み中の子供たちや市民の方々が、生の舞台演劇を鑑賞できたことはとてもよいことだったと思いました。

第二次大戦末期、鹿屋という身近なところでの特攻の話で、夏のこの時期に合ったテーマのものであったと思います。

言葉や内容的には、小学生には難しい部分もあったかもしれませんが、雰囲気を感じ取ってくれたり、命の重さ、生きる意義、平和の大切さ、家族の愛など、いろいろな思いをめぐらせる時間になったのではないかなと感じる時間でした。以上です。

福里委員

私も7月31日にあった県庁での会議に参加しました。いろいろな講話があった後に、不登校についてのグループの話し合いがありました。

どの市町村も悩まれているようでした。私は、宇検村の方と一緒にしたけれども、その方は移住されてきた子供たちよりも内地の子供たちの方が不登校の傾向があり、学校の方から登校をうながしても、なかなか保護者の理解が薄いというふうに言われていました。

また、小学校で不登校になってしまうと中学生になってもなかなか解消されないところも多いようでした。

別の会議で、今、中学校で不登校になっている保護者と話す機会があったのですが、1年生の頃は登校していたが、2年生になって登校をしぶるようになり、保護者の方も何が理由かわからないと話されていました。

とても心配されていて、「小学校からみんなと一緒にだったら違ったのかな」というようなことも言われていました。

登校すると担任の先生が職員室まで呼んで「よく、これだね、この調子で頑張りなさい」というふうに言われているらしいのですが、それがその子にとってはプレッシャーになるらしく、「自分だけ職員室に呼ばれた」ということで、「周りから何か変な目で見られるのでは」でないのですが、そんな思いであったりとか、私たちからすれば、「先生に褒めてもらえるから行こう」と思うところですが、そういうところも学校は難しいのだなと思いました。

友達がいなくてもいいのですが、小さな小学校から入学している方なので、「やっぱり、小さいころからみんなと一緒にだったらよかったのかな」と、ぼそつと言われていました。

うちの息子も、いよいよ受験生の夏休みが始まりました。

志望校はまだ決まっていないのですが、高校の一日体験入学に何校か出かけています。

最初は候補の高校は1校だったのですが、この体験入学に出かけたことによって、候補の高校が2校になりました。

さっきほど課長が、でんじろう先生の話を読まれましたが、高校の体験授業では、国語を選んで授業に参加した。

その授業でプリントが配布されたのですが、そのとき何か1つ足りなかったようです。そのときに先生が舌うちをしたみたいで、それを見て本人はこの高校は外れかなと思ったらしいのですが、いざ授業が始まってみたら、すごく楽しかったらしいです。

ちょっと髪の毛のくるくるした若い先生だったらしいのですが、先生の最初の話しかけが、「僕の髪の毛は、テンパだと思いませんか、それとも、おしゃれパーマだと思いませんか」と質問をされたり、最初、クイズ方式で授業を進めて、その後、書き出し小説というのを体験しました。

そのクイズで当たったことや本人が書き出し小説でも選ばれたことも、うれしかったようで志望校の候補になったようでした。

そういう楽しい授業を私も見ていて、楽しい授業だなと、何かこうこういう授業がいつもできるといいなと思いましたが、息子もそのことをすごく感じたらしくて、そういう面白い授業というか、楽しい授業ができるということは、すごく子供にとっては、重要なことだと思いました。

8月1日は、中学生は出校日でした、その後、平和学習に参加し、演劇を観に行かせてもらいました。残念だったのは、垂水小学校は、出校日ではないからということで希望者のみの参加ということで、全員参加ではありませんでした。

戦争という重い内容でしたので、息子は多くは語らなかったのですけれども、息子なりに感じたこともあったようでした。

また、生徒会の文化部長ということで、花束贈呈と新聞社のインタビューも受けさせてもらいました。すごく簡単なことをしていたのですけれども、本人はすごくいい経験ができたと喜んでいました。

昨年度、中学校の体育大会でソーラン節を初めて見させてもらいましたが、夫が「あれだったら、やらなくてもいいのじゃないの」という厳しい意見を言っていました。なにか、だらだらしているのを見て、「小学校のときの方が一生懸命頑張っていたね」というようなことを言ったのですが、やっぱり同じように思っていた方がいらっしゃったらしくて、今の体育部長にそういう意見をいって、体育部長から「しっかりとやりたい」と体育の先生に話をしたそうです。

先生もその意見に賛同してくれて、みんなで頑張ろうということで、今すごく力を入れて頑張っているのですが、中には、やっぱりふざけたり、先生が指導するのに寝転がっていたりとかする子もいるみたいです。

中学校もなかなか厳しいなというところもあるようですが、みんながまとまって、いい体育大会ができるといいなと思います。以上です。

教育長

多感な時期の子供たちというのはなかなか難しいです。垂水小みたいに「一生懸命はかっこいい」が、届けばいいですね。ありがとうございます。

また、高校の話は面白いですね。それは、また、子供たちがぐっと引きつける、そういう「うまさ」が私立の学校の先生方にはあります。

一番は授業です。そこが魅力的に映ると、それが志望動機ということになる。

それは、本市の中高連携でもやっています。実は、垂水高校の先生が、中学生に授業するというところを行っているのですけれども、今、話をお伺いしながら、そのような魅力的な授業を、わくわくするような授業を行っているのかなということを思いました。ありがとうございます。

では、最後に私の方からです。

「桜舞」花征きて、私も田之上委員と同様だったのですけれども、これは平和学習そのものでした。

小学校1年生から中学校3年生まで、受け止め方はいろいろで私はいいと思います。

つまり、「感動」、「人の心を動かす」、あるいは「揺さぶる」というのは、それぞれ違っていいわけです。例えば、場面だったり、ストーリーだったり、テーマだったり、あるいは人の演じ方、役、役柄だったりとか、

何かをそこで感じてもらえればいいのかと思っています。

小学1年生は1年生なりの感動、中学3年生は中3なりの感動、そしてまた、これを複数年経つと、同じような平和学習の演劇を、また、子供は観ることになるわけです。

そうすると、小学校1年のときは、あんなふう感じたけど、もちろんテーマとか、ストーリーは若干変わっていくのでしょうけれども、それでもやっぱり伝わった感動、きっかけは、やっぱり小1のときの今回の平和学習だと思います。

それをベースに観賞すると、その比較でもって、感動の度合いが大きくなっていくのかなという気がします。いわゆる意味がわかるということです。

ですので、本物を観せるというのは、だからこそ、こういう本物を観る機会に、なかなか出会えない本市の子供たちにとってはよかったのかなと思っています。これは、学校教育課のわくわくどきどき夢教室と重なる共同事業でもありましたので、さらによかったなと思います。

裏話を少し付け加えますと、実は、裏方さんの力も中学生に見せたいということで、この主催された方は、別途、映像を取っています。

裏方がどのようなふうにして、あの舞台を作り上げて、そして、演者に渡すかという、そういうところを、まさにキャリア教育に繋がると思うのですけれども、こうして演劇ができあがっているのですよ、というのを裏方から、そして、表舞台を見せていくという、非常に巧みです。

こういう意味で、近々そのDVDが送られてきます。送ってくれるという約束をしてもらっていますので、おそらく、また、あのときの感動とともに、裏方さんの仕事というのが、こういうすばらしい演劇に繋がる、だから、必ず仕事にはそういうものがあり、裏で頑張っている人たちがいるからこそ、こういう表で輝く人たちがいるのだということが分かるのかなと、それをまた生かしてもらいたいなと思っています。

また、子供たちの感想がよかったです。

福里委員の息子さんの「生の演劇は迫力がすごい、隊員の家族に感情移入した」と、「感情移入」という言葉を使っています、さすが中学3年生です。2年生の子は「過去の命の犠牲と今の平和について考えさせられた」というふうに述べています。

それぞれ学年で受け止め方、視点が違うのですけれども、重たく受けとめています。生の演劇、観劇に向き合っていたのだなというところは、新聞記事を読んでも、思ったところです。

もう1つ私が感心したのは、タイムマネジメントです。

時間がぴったりでした。10時に始まって、12時前にきちんと終わるところは、実は社会教育課長が仕組んでいました。

市長の登壇の時間を9時55分、これもぴったりと始めて、そこで静粛にさせて、10時スタート、そして12時前にきちんと終わる。

これは、やっぱりプロだと思います。だから、ここは我々も見習わなければいけないなと思いながら、「時間を守ること」、守ることが大前提で、こういうイベントがあるのだと思います。大いに学ぶことでした。

おかげさまで、一番遠い子供たち、牛根方面なのですけれども、12時45分には、学校に到着しました、当初のめどは13時でしたので、これも目標達成です。

タイムマネジメントが、いかに運営の側に大事だということを学ばせて

いただいたイベントでもございました。

次に、もう1つは、学校教育課主管の行事です。

今年度、小中学校の教育研究会「夏季合同研修会」がありました。これまで私が見てきた中で一番よかったかなと思っています。

GIGAスクールが始まって4年目ですが、午前9時にスタートして、午後4時15分に終わるといふ、この時間は変わらない。しかも、GIGA漬けというのも変わりません。

今回は、まず、最初に鹿児島国際大学の先生、本市の新たなGIGAのアドバイザーですが、この先生が90分、要するにGIGAスクールを俯瞰的に、「GIGAスクールって何のためにやっているのか」ということなど「教員はどんなふうに変わっていけばいいのか」とか、「GIGAの日本型学校教育を目指すというのはどういうことなのか」ということを具体的に話してくれました。

それをバトンタッチして、県の教育委員会の指導主事が、今度は要するに、CBTとって、今後はおそらくタイピングでもって全国学力・学習状況調査、鹿児島学習定着度調査をすることになっていくと思いますが、タイピングを含めた、CBTをどういうふうによく駆使しながら、「学習者主体の授業を作っていくのか」ということを、具体例を示しながら話をしてくれました。これもよかったです。

そのあとは、新城小校長が生成AI、チャットGPTをどう使って、いわゆる「業務改善を図っていくか」とか、「学習でも使っていくか」ということをやりました。これは、おそらく県内でも初めてぐらいの中身だったと思います。

また、ロイロノートを松ヶ崎小教頭が、そして、水之上小学校教頭は、キャンバ・フィーグジャムという、ジャムボードの後継機ですけれども、それにチャレンジしてくれました。市内の管理職でもって、講師をできるというのは、垂水の強みです。

最後は、文部科学省からきた先生が2学期の授業づくりというところで、今日いろんなことを「講演会から、そして、具体的な演習から」学びましたが、結果「2学期、先生方はどんな授業づくりをしますか」というところでテーマを与えて、それぞれ自由にグルーピングして作ってもらいました。

いわゆる「子供主体の授業を作っていくか」ということだったのですけれども、これが非常に良かったです。

市外から「今回の研修に参加させてください」という声はいくつかあったのですが、今年度、来年度ぐらいまでは、市内でしっかりと土台を固めるということで断ったところでした。

ということで、本当にすばらしい研修会だったと思います。もちろん、先ほどの裏方の話でもありましたけれども、これを企画・運営した学校教育課長はじめ、学校教育課の苦労というのは測り知れないものでした。

加えていうならば、社会教育課、教育総務課の職員の手伝いも大いにもらって、できあがった夏季合同研修会でした。

最高の研修会だったと思います。

単独市で、こんな研修会はまず無理です。県レベル、全国レベルの研修会なのかなというふう思うぐらい、いい研修会だったという紹介でした。

教育総務課長
学校教育課長
社会教育課長

7月6日から8月8日までの主な行事等について各課長が報告。
併せて、8月9日から9月9日までの行事予定についてお知らせした。

6 閉 会